

「子どもの発達に関する課題」
研究主題「地域に根ざした体験活動に取り組むふるさと教育及びキャリア教育の充実を目指して」
～地域との関わりについて教頭としてどのように関わればよいか～

令和4年度日之影町教頭会

1 主題設定の理由

日之影町には3つの小学校と1つの中学校がある。各学校において「ふるさと日之影への愛着と誇りを持ち、自分の夢に向けて行動できる児童生徒の育成」を目指し、地域に根ざした体験活動をおとしたふるさと教育及びキャリア教育に取り組んでいる。

学校と家庭が連携・協働した活動をさらに展開していくためにも、教頭としてどのように地域と関わっていくべきかを明らかにすることは、これらの教育のさらなる充実になると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

町内の各学校における地域に根ざした体験活動をおとしたふるさと教育及びキャリア教育を充実させるために、教頭としてどのように地域と関わっていくのかを明らかにする。

3 研究の概要と成果

(1) 町教頭会研修会を活用した情報共有

① ふるさと教育及びキャリア教育における町内の各学校の取組について情報共有する。

定期的に行われる町教頭会研修会の時間を活用し、町内の各学校の取組について情報交換を行った。その際に、本町教育委員会が作成している「町保・小・中連携の手引き ひのかけ『つなぐ』学習ガイド」を参考とした。

＜日之影小学校の実践（一部）＞

全校児童29名。複式学級を有する小規模校である。今年度は特別支援学級を含めて5学級である。本校には、「日之影小ネットワーク会」があり、学校と地域が協働して学びを広げる要となっている。令和2年度に県教育長表彰を受けた。児童の登下校の見守り隊や、読み聞かせ、古園棒術、追川団七踊り、子ども教室など総勢30名ほどの会である。



人間関係形成・社会形成能力を育成するために、特に伝統芸能文化の継承に力を入れている。3・4年生は、古園地区の方々のご指導のもと棒術を学び、5・6年生は追川団七踊りを学び、中学校へ学びをつなげている。



また、キャリアプランニング能力を育成するために、地域の方々との環境教室や、やまびこトーク等、特色ある教育活動を展開し、キャリア教育の充実を図っている。



＜宮水小学校の実践（一部）＞

町役場、町立図書館、町保健センター、特別養護老人ホーム青雲荘などの施設に囲まれた、全校児童69名、複式学級を有する小規模校である。

町内には団七踊り、神楽などの伝統文化が各地区にあり、各学校で文化の継承に取り組んでいるが、宮水小学校ではこれまで教育課程にこのような取組が設定されていなかった。今年度、地域学校協働活動推進員との連携により、宮水地区に残る「大人歌舞伎」について4年生児童14名が調査活動を行った。



「大人歌舞伎保存会」の方や歌舞伎についての学習をしている日之影中学校の生徒へのインタビューや着衣、化粧体験などを通して、伝統文化の魅力を知り、地域を愛する心を育むことに取り組んだ。

<高巣野小学校の実践（一部）>
高千穂町に隣接する日之影町最西にある小学校であり、全校児童は33名、完全複式学級の3学級である。新型コロナウイルス感染症のため、地域と関係する行事がこの2年で大きく中止または縮小されたが、もともと地域とのつながりが大変強く、たくさんの行事に地域の協力を得ながら活動した。

地域とのつながりを大切に、地域の人との交流により地域の人の伝統的な技や心を知る機会としてふれあい会を行った。



また、役場や高千穂高校から講師を招き、西臼杵山間地域の特色を生かした産業等を学ぶ、SDGs授業を行い、将来の進路意識の形成を行っている。



<日之影中学校の実践（一部）>
10月の文化祭において、1・2年生が、地域の伝統文化保存会の方による1か月半の指導のもと、「大人歌舞伎」「深角団七踊り」を発表した。小学校で伝統芸能に親しんでいる生徒にとっては、小学校からの学びを生かして地域の魅力発信を行い、伝統をつないでいく地域の一員として思いをもたせる場となった。

また、3年生は、総合的な学習の時間で町の課題について班ごとにテーマを設定し、半年をかけて課題解決に向けての探究学習に取り組んだ。班ごとのテーマには、「観光活性化」「農業の振興」「林業の振興」があり、班にそれぞれ、町の関係職員にメンターとして支援を受けた。生徒たちは、他町の道の駅へのインタビュー

や農家民泊、ドローン体験企画等、メンターを通して、地域とのつながりや学びを広げることができた。11月には、町に解決策を提案する「ひのかげ近未来会議」を行った。本会議では、副町長、町教育委員会教育長、町議会議員、町観光協会や地域おこし協力隊、地域住民、保護者が参加した。



② ふるさと教育及びキャリア教育における町内の各学校と地域との関わりについて情報共有する。

各学校のふるさと教育やキャリア教育において、学校と関わっている地域（人や団体）とを簡潔に1枚のマップ上につないだマップ（ひとおかげネットワークマップ）を作成し、町内の教頭間で、町内の各学校と地域とのつながりの「見える化」を図った。

4 研究の成果

○ 小学校にとっては、各小学校の取組について、中学校にとっては校区内の小学校の取組について共通理解ができた結果、小学生が中学生に同じ伝統芸能についてインタビュー活動が行われ、小中連携による学びを深めることにつながった。



○ 教頭会研修会において「ひとおかげネットワークマップ」を作成することで、町レベルでの各学校の地域との関わりがわかるとともに、各学校において、教頭が地域とどのように関わっているのか、情報共有ができた。今後、学校と地域の連携・協働した取組を円滑に進めていく上で、参考となると考える。

5 今後の課題

○ 「ひとおかげネットワークマップ」を用いたふるさと教育やキャリア教育充実のための具体的な関わりについては、明らかにはできなかったため、今後も、教頭会研修会において、整理を進めていきたい。